

「夢は叶う」



建築科昭和46年第158回卒業
(株)アイライフ代表取締役社長
中林幸一

私が工学院大学専門(当時は専修)学校建築科に入学した時にちょうど新宿での超高層ビル建設がスタートした。京王プラザホテルの基礎工事から完成するまで毎日、進捗状況を学校の窓から眺めることができた。あれから38年が過ぎ、今や超高層ビルは普通の風景になってしまった。当時の私は、工業高校機械化を卒業し大手時計メーカーに就職したものの、大企業での将来の自分の姿をイメージすることができず、それより何をやって良いかわからないが、起業して自分のカラーで生きてみたい欲望が次第に高まっていた。それが行動としてあらわれた結果、専修学校で夜、建築を学びながら起業を準備しようということになった。体にあまり自信がなかったので時間的に余裕の取れた親戚の肉問屋でアルバイトをしながら通学した。しかし通学中はその答が見つからなかった。その後、建築板金店、設備設計事務所、土木建築会社、空調衛生設備会社、水道工事店などの勤務をしながら仕事を覚え、一級管工事管理技士をはじめ多くの資格も積極的に取得、事業資金もこつこつと750万円まで貯め、1980年、昭和55年5月に念願の中林工業有限会社を一人で興した。



建築会社からの下請けとして設備工事を行なうスタイルで事業を展開してきたが、お施主

様から直接工事を請負う形を模索し続けた結果、住宅リフォーム事業に興味が深まってきた。昭和58年頃から少しずつ研究を初め日本増改築産業協会にも入り、研究に熱を入れた。トイレ、浴室などの水廻りから営業も試みた。平成元年には思い切って銀行から全額借金をして現在の本社社屋を建てた。水道工事店としてではなく、リフォーム会社としてのデザインで建てた。社名も株式会社アイライフとした。しかし、水道工事店とリフォーム会社の両立はうまくいかず、数多くの事故、事件を引き起こし倒産寸前の状態となった。意を決して4年の準備期間を取りながら水道工事店を廃業し、元請体制の住宅総合リフォーム事業一本に絞った。その結果、一時年商が5千万円、総勢3人という状況になったが、リフォーム事業に徹する日々が精神的に楽になり、次第に事業は成長し始めた。現在年商5億円、自慢の社員15人、たいへん良いお客様に恵まれ、また今年から社員全員で取り組んでいる経営品質活動がとても楽しく充実感が大きい。58歳になった現在も同年の友人達は退職後の生活をどのように暮らそうか話題にしている中、私だけはどのように事業を伸ばしていこうか、青年のように夢を追いかけている、たいへん恵まれた毎日を送っている。大企業を早いうちに辞め、準備に悔いの残らないくらい時間をかけ、思い切って起業してつくづく良かったと思う。社長業にはたいへんな苦痛も付きまとう。地獄のような修羅場も経験した。しかしその時はそのように感じたことも時間が経つに従い、乗り切ったことが自信となり、心地よく体の奥底に宝として残っている。社長業ほど自分に向いている仕事はないと思う。顧みるに今の自分があるのも工学院大学専門学校という私を守ってくれた港があり、勉強しながら安心してじっくり将来を練ることができたことが基本になっている。この紙面をお借りし、改めて感謝したい。